

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌

まなぶだより



学びの丘イメージキャラクター
まなぶ

教員の資質・能力の向上を目指して ～「教員としての資質の向上に関する指標」の活用～



令和4年に「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」が成立しました。そして、本法律を踏まえ「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」及び「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン」により、指標の改訂と研修履歴の活用の方針が示されました。これを受け、本県でも「教員としての資質の向上に関する指標」を改訂しました。さらに、「研修履歴活用ガイド」や教員の資質・能力の向上を図るツールを作成し、新たな学びに向かうための「手段」として活用を勧めています。

本県の「指標」を改訂するに当たり、指針で示された「教師に求められる資質能力の5つの柱」に則り、全ての内容を再検討しました。指標シートも「0段階」と「1～4段階」に分割し、身に付けるべき教員の資質・能力について、教壇に立つ前の「養成期」と採用以降の各キャリア段階とで分けて確認できるようにしました。改訂した「指標」は、既に研修において活用しており、7月末に実施した2年次教員と中堅教員とのクロスセッションでは、キャリア段階の異なる両者が、改訂した「指標」を基に、それぞれに求められる資質・能力について協議をしました。



自己分析ツール

また、「指標」の活用促進等に向けて、今年度は「自己分析ツール」を作成しました。これは、「指標」を基に、経験年数にとらわれず、現段階の達成度をセルフチェックすることを通して自己分析できるツールです。エクセルファイルで作成しており、小項目をクリックすると、数値化されたレーダーチャートが自動作成されます。これを基に業務との関連や資質・能力を更に伸ばすための方策等について分析、検討ができます。今後も、学びの丘の研修等で活用しますが、校内においても、対話に基づく受講奨励の場や校内研修等で活用してください。

これからの時代に必要な資質・能力を一体的に育むために ～令和5年度幼稚園等新規採用教員研修／幼稚園等中堅教諭等資質向上研修～



当センターの幼稚園等教員を対象とした研修は、毎年実施している新任教員を対象とした研修に加え、中堅教諭等を対象とした研修を隔年で実施しています。今年度は両研修を実施する年に当たり、受講者は、各キャリア段階に応じた力を身に付けるため、学びを深めています。

新規採用教員研修では、幼児教育や幼稚園教育について、国の動向や県の方針について理解を深めるとともに、幼児を対象とした音楽活動や造形表現、運動遊びといった、明日に生かせる保育実践について体験を通して学んでいます。

中堅教諭等資質向上研修では、子育て支援や園の体制づくり、特別支援教育や人権教育についての学びを深め、園の運営に関わるミドルリーダーとして、また幼児や保護者と共に歩んでいく教員として、求められる力をより高めていこうと意欲的に研修に取り組んでいます。

今後は、幼稚園や小学校にて公開保育や研究保育、公開授業を予定しており、具体的な実践を踏まえたよりよい保育を追究していきます。

幼児教育は、子供たちにこれからの時代に必要な資質・能力を一体的に育む上で重要な役割を担っています。その充実には、保育者の資質向上が欠かせません。現場のニーズに応じた研修を提供できるよう、体系的な研修を実施していきます。



新規採用教員研修の様子

当センターでは、市町村教育委員会や学校等と連携して研究や研修に取り組み、その成果を県内に普及することを目的とした「指導主事派遣事業」を実施しています。ここでは、8月に実施した和歌山さくら支援学校での校内研修及び本年度紀の川市と連携して取り組んでいる理科の研修について紹介します。



児童生徒の実態把握から指導すべき課題の明確化に向けて

和歌山さくら支援学校において、「自立活動」に関する全校研修を実施しました。特別支援学校の教育課程に特別に設けられた自立活動は、他の指導と異なり、個々の児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して指導を行うことが基本となるため、教員による児童生徒の実態把握が鍵となります。

今回の校内研修では、その「児童生徒の実態把握」について、客観性、妥当性をより担保するため、付箋を活用し児童生徒の自立活動の「指導すべき課題を抽出する」演習に取り組みました。手順は、①対象となる児童生徒の日々の姿や行動を複数人の教員で付箋に書き出し、模造紙に貼る。②似た項目同士をグルーピングし、項目同士の関連や背景要因を考え、模造紙に矢印や言葉等で関係性を書き加えながら児童生徒の実態に関する課題関連図を作成する。③模造紙上で多くの付箋が関連している箇所、加筆が多い箇所から児童生徒の「指導すべき課題」を捉えるというものです。

和歌山さくら支援学校では、全教員が年齢や教職経験年数、児童生徒との関係性の深さ等に関係なく率直に意見を交流しながら、意欲的に研修を深めていきました。研修後には、「充実した話し合いができた」「とてもいい機会で、今後も取り組んでいきたい」といった感想が寄せられました。全教員で目標を共有した取組の継続により、的確な実態把握を基にした指導支援が期待されます。



演習の様子



令和5年度紀の川市学力向上に係る研修会 ～小・中学校理科研修～

児童生徒の理科の学力向上を目的に、紀の川市の小・中学校から理科担当者が集まり研修を実施しています。全6回の研修を予定しており、現在は4回目を終えたところです。小・中学校の9年間の理科教育を意識し、中学校区でチームをつくり研修を行っています。「今、求められる資質・能力」について、テーマごとに指導主事が改善の余地のある模擬授業を行い、それをチームで協議し、より良い授業に改善するなど、主に授業づくりについての研修を深めてきました。チーム内の協議では、小学校での授業の丁寧さや、中学校での専門性についてなど、様々な意見が飛び交い、授業づくりのみならず、内容の系統性についても話合っています。今後は、これまでの研修を踏まえ、チームで授業をつくり、小学校で実践します。その授業実践から、資質・能力を

育成するための授業が行えたのかなどを評価し、今後の授業づくりにつなげていきます。また、中学校区で授業を実践することによって、地域の児童生徒をどのように育成していくかなども協議しています。



受講者の協議の様子

- 模擬授業のテーマ**
- <第1回目> 差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現すること。
 - <第2回目> 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。
 - <第3回目> 予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。
 - <第4回目> より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

授業改善の視点

<問題を見だす活動の学習指導>



「なぜ(どうして)・・・」

「価値が高い」

「良い」

「なぜ(どうして)」を含んだものについては、内容には解けないことなどから、「価値が高い」あるいは「よい」などと認識する例があることが分かった。適切な問題を設定する大切さや、問題を科学的に解決するよさなどを計画的に指導していくことが必要であると考えられる。



赤く色づきはじめて
学びの丘の木々